

小児
循環器
内科

胎児から大人まで一貫した 高度な成育医療

当科では、重症の先天性心疾患例を胎児期から管理し、心臓血管外科とのチーム医療で、良好な治療成績を収めています。また、当科は昭和43年開設の古い歴史を持ち、キャリアオーバーした成人例の管理・治療の経験も豊富です。新病院では、従来通り心臓血管外科、循環器科とタッグを組み、さらに小児科、産婦人科、各種専門科と連携することにより、胎児から大人まで一貫した高度な成育医療が実現します。

担当する主な検査と治療

心臓カテーテル治療

年間50件以上の治療(アブレーションを含む)を行っています。新病院では、ハイブリッド手術室が新設され、心臓血管外科とのコラボレーションにより、高度な心臓カテーテル治療が可能となります。

胎児心エコー検査

重症先天性心疾患は、妊娠18週から胎児心エコー検査により診断できます。新病院では、胎児期から診断・管理し、出生直後から高度な治療を行えるようになり、重症心疾患例の治療がさらに充実します。

対象とする疾患

昨年、外来受診した先天性心疾患症例は1775例で、心室中隔欠損(688例)や心房中隔欠損(420例)などの単純短絡疾患から、ファロー四徴症(203例)、完全大血管転位、単心室や総動脈幹遺残などのチアノーゼ性心疾患(398例)まで幅広く診ています。

学校心臓検診で発見された心室性期外収縮、WPW症候群や、川崎病後冠動脈障害、弁膜症、心筋症などの管理治療も行っています。



県立尼崎病院
小児循環器内科科長

坂崎 尚徳

日本小児科学会専門医
日本小児循環器学会専門医

左から：稲熊医師、坂崎医師、松岡医師、鶏内医師